

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年3月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800244
法人名	特定非営利活動法人 NPOみなまた
事業所名	グループホーム 三郎の家
所在地	鹿児島県出水市住吉町6番18号 (電話) 0996-65-7740
自己評価作成日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業所は国道三号線から名護方面へ向かった先にあり、土地の所有者である三郎さんへの感謝の意を込め「三郎の家」とつけられました。

利用者様は縁側から見える海や紫尾山を眺め、ゆっくりとした時間を過ごされる方もいらっしゃいます。理念である「安心・安全・共生」を大切にし、1人ひとりの残存能力に合わせお手伝いをさせていただきながら、お互いに「ありがとう」と感謝の言葉と気持ちも大事にしています。

職員に関しては無資格・未経験であってもその方の頑張り次第と思っており、出来るだけ働きやすい環境づくりを心掛けています。今後は更に認知症ケアのプロとして、知識とケアの向上を目標にしたいです。

ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響で地域の方との交流やご家族の面会の制限があり満足のいかない状況にあったと思いますが、少しずつ制限緩和もしています。これからは以前のように制限のない生活を送り、利用者様とご家族の笑顔が少しでも多く見られるよう、職員全員で頑張りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所の周辺は、海が近く船つき場があり、紫尾山が見え、利用者は毎日景観を楽しんでいる。
- ・コロナやインフルエンザ等の感染状況を確認しながら、面会の方法を工夫し家族や知人等の馴染みの関係を大切にしている。
- ・利用者の介護度は比較的軽度の方が多いため、地域の行事や催し等にも参加できるようになってきている事で、外出の支援計画もある。
- ・食事は配食サービスを利用している事から、職員が介護に携われる時間が長くなり、ゆったりした支援ができています。
- ・管理者は、職員の相談事にも時間を作り、相談に応じたり助言をしたりしている。職員からの信頼も厚い。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	その日の出勤者全員で朝の申し送り時に三郎の家の理念である「人権・安心・共生」を唱和し、理念の共有、実践へとつなげている。	理念を玄関入り口やリビングに掲示し、パンフレットに掲載している。朝の申し送り時に唱和している。振り返りは職員会議時にモニタリングをしてふり返って次に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により交流がほとんどない。現在は自治体への加入、リサイクル当番だけは継続して参加している。	町内会に加入し地域情報を得たりリサイクルの日には参加している。有償ボランティアを2名受け入れている。月に1回程度職員と一緒に買い物に出かけ、地域のスーパーマーケットに立ち寄り地域の人たちとの交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍により地域の方との交流がほとんどない。今後の課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策として昨年に続き書面での開催。意見も後日書面でもらいサービス向上に活かしているが、3月からは以前のように対面での開催を検討している。	会議は2ヶ月毎に書面で実施している。資料を関係者へ送付し文書で意見を頂いている。家族から面会をしたい等の意見があったり、プリントの字が小さいとの声が聴かれたので即対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	密に連携を取っているとは言えないが、分からない事があればその都度役所等へ連絡し、協力してもらっている。	市職員が運営推進会議に参加している事で意見交換ができています。窓口にて生活保護担当職員と相談をすることが多い。市主催の研修会に参加して情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回法人内での研修を行い理解に努めている。玄関の施錠も行わず、その他の身体拘束も現時点では行っていない。	マニュアルを基に年2回法人内で研修を実施している。身体拘束適正化委員会は2ヶ月毎に実施している。スピーチロックに気づいた時は、管理者がその都度注意している。玄関の施錠はしていない。外出希望者は、職員が同行して散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年法人研修にて学ぶ機会を設けている。皆で気を付けているが様々な虐待があるので、これからは虐待防止に努めたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人研修で学ぶ機会を設けている。昨年は役所の方のアドバイスを受けながら「保佐人」がいた方がいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居する際に説明を行い同意も得ている。説明後にも質問される事もあるので、その都度説明し、同意ももらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時にも話を聞くようにしているが、コロナ禍よりメールでのやり取りが多くなったので、その際にも意見等ないか伺っている。	利用者からは日常の会話の中で意見を聞いている。家族は面会時に聞いたり、ラインで意見交換をしたり、事業所用のタブレットで動画を見たりして思いを聞き、対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行うミーティングで意見等ないか聞く事が多いが、気になる事があればその都度意見を出してくれる職員もいる。意見が言いやすい環境づくりを心掛けている。	毎月ミーティング時に意見や提案等を聴いている。ケアの提案や備品の購入等については事業所で判断して対応している。昼休みは交代で取っている。管理者は職員の個別の相談にも快く応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎年処遇面は改善されているが、職員の感じ方はそれぞれの様子。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し研修等も促しているが、なかなか参加しない職員もいる。法人内での研修だけは全員参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流はあまりないが、毎月同法人の管理者等が集まり、各事業所の報告をして意見交換は行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に頂いた情報とは実状が異なる事が多い。本人様に話を聞いたり生活を見ながら情報収集し、関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みをする際や入居時に話を伺い、現時点での問題を解決できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	感染症対策を考慮しながら、必要であれば他のサービスの併用も検討したい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で少しでもその方の出来る事をお手伝いしてもらい、必ず感謝の気持ちを伝えている。同じ場所で一緒に生活する者としての関係性をこれからも大切にしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限はまだあるが、電話やメールでの近況報告は行っている。中には連絡がつきにくいご家族もいるのが現時点の課題である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在も感染症対策として面会の制限をかけているが、感染状況を見ながら緩和も行っている。これからも関係性の継続に努めたい。	家族の面会は窓越しや玄関内で距離を置いて行っている。電話の取次ぎや手紙・はがき等の支援もしている。自宅訪問や墓参り等は職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、トラブルにつながらないよう職員は見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に本人様やご家族に会うことはほとんどないが、相談等があれば可能な限り対応したい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションが取れる方の希望等は把握しやすいが、そうでない方の意見を把握するのが困難と感じている。職員間で話し合い、少しでもその方の意向に沿えるよう努力している。	思いや意向を言える人は、思いついたときに話をしたり、ゆっくりとしている時に昔話の折に聞く場合もある。意思疎通の困難な人は家族に聞いたり表情・動き等から把握して職員間で情報を共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様やご家族、ケアマネさんから詳しく話を聞き、これまでの事を少しでも把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の状況を職員全員で観察・情報共有し、その方の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人様やご家族から話を聞いている。毎月の会議では職員間でも意見を出し合い、ケアプランに反映させている。	本人や家族から意見や要望を聞き主治医からも意見を聞き職員間で話し合い介護計画を作成している。毎月のミーティングでモニタリングをして、見直しは3ヶ月～6ヶ月で行い、変化時も見直しを実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりの記録は細かく記載している。ミーティングでは更に意見を出し合い、実践やケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを伺いながら事業所で出来る限りの事を行っている。今後もその方に最も必要な事は何かを考え、その他のサービスも視野に入れ、柔軟に対応したい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はサロンや地域行事にも参加していたが、近年は感染症対策として参加を控えている。感染状況を見ながら以前のように地域の方との協働に努めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族の意向を聞きながら希望する医療機関を受診しているが、本人様の状況に適した新たな医療機関も打診する事がある(精神科のみの方、内科も受診等)	ほとんど協力医療機関が主治医となっている。月2回の往診があり、24時間医療連携体制が取れている。歯科は近くの歯科に職員が同行受診をしている。ライン等で病状等を説明し連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日以上は看護師・准看護師が勤務している。いつもと違う事があればすぐに相談し、必要であれば医療機関を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り病状説明等は職員も同席させてもらっている。お互いに情報提供し、入院中の安心と早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時からその方の身体レベルが下がった時に今後についての話をしている。昨年に続き今年度も一人の方の看取りを行った。	契約時に指針に添って説明をし同意書をもっている。重症化した時、主治医より家族へ説明し家族の意向を確認している。事業所で出来る最大の支援をしている。看取りの事例がある。最終的には救急搬送をする場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近年はコロナ禍により心肺蘇生の実技は行えていないが、急変時のマニュアルや法人研修をもとに事故や急変に備えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定総合訓練は年に2回行っている。今年度はBCPも作成した。コロナ禍で地域の方との交流があまりないので今後は協力体制を築いていきたい。	年2回昼間を想定して防災訓練を実施している。1回は消防署の立ち合いがある。緊急連絡網に自治会長が加入している。備蓄は水・米・乾パン・乾麺・インスタントラーメン等が、3日分程度ある。備品はカセットコンロ・懐中電灯・発電機等の準備がある。事業継続計画（BCP）を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせてプライバシーに配慮した対応をしているが、うまく話す事が出来ない方もいる。疎通が難しい時もあるので、自尊心を傷つけないよう対応したい。	認知症ケアの研修の中で、人格の尊重・プライバシー等について学習している。言葉かけ等に配慮している。トイレのドアの開閉、入浴時の更衣等の羞恥心への配慮、入室時のノック等のプライバシーへの配慮等をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも職員で決めようとせず、可能な限り本人様に伺い自己決定の場面を増やせるよ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその1日の流れはあるが、その方の体調や気分に合わせて過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人様がうまく出来ていない事が多いので、さりげなく職員がお手伝いするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は味付け等どうかを伺いながら、その方の好みを把握している。片付けはほぼ毎日お手伝いをしてもらっている。	昼と夕食は配食サービスを活用している。ご飯と味噌汁は事業所で作っている。行事食ではデザートを準備し、誕生日食ではケーキを準備している。お茶碗拭きやお盆拭き等を利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は一人ひとり接種量を把握している。排泄や体調面も考慮しながら必要に応じて摂取量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりに応じて声掛けや介助を行っている。歯の治療が必要な方で受診が難しい方は、歯科往診を検討している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合わせた排泄と自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握して、誘導したり、声かけをしたりして日中はトイレでの排泄を心掛けている。リハビリパンツと尿取りパット使用者が多い。布パンツのみの人もいる。夜間は安全の為にオムツ使用者やパットのみ交換の人もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用をしている方もいるが、なるべく自然排便を促せるよう水分量・運動量にも配慮し、乳製品等も用いて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の日程は施設側がおおよそ決めているが、その日の体調や希望があれば調整している。浴槽に入ると普段話さないような事も話される事があるので、今後も楽しく入浴が出来るよう支援したい。	入浴は週2回午前中が基本だが午後に入浴する人もいる。拒否者は午前中に声かけをして難しい時は、午後入浴をしている。浴槽浴・シャワー浴・足浴を実施している。入浴の順番も配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりに合わせて日中休んでもらったり、夜間休めるよう日中は活動性を高めたり等して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてはファイリングし、すぐに確認できるようにしてある。処方変更時はどのような変化があるかを細かく観察し、必要であれば主治医へ報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気の合う方同士ゆっくり話が出来るような空間づくりや、無理のない範囲でのお手伝いの実施。人によっては職員と一緒に起床介助をして下さる方もおり、楽しみの一つだと考えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	自ら外へ出て散歩や外気浴をする方があまりいないが、行事や天候と職員に余裕がある時は外出する事がある。感染状況を見極めながら更に外出支援を増やしていきたい。	職員の状況を見ながら、利用者へ声をかけて周辺の散歩に出かけたりしている。近くの神社へ時々散歩ついでに出かけている。受診時に買い物に出かける事もある。年間外出行事計画書を作成している。初詣は事業所で鳥居をつくりお正月気分を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理されている方は現在2名。1人の方は希望があれば職員と一緒に買い物へ行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙でのやり取りはないが、ご友人から電話があり会話する事はあった。スピーカーで会話してもらい、必要であれば職員がサポートしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外を見てもよ々とカーテンを少し開けただけで「眩しい！」と立腹される方もいたり一人ひとりの感じ方が異なる。それぞれの特徴を把握し、トラブルを未然に防ぐ空間づくりを工夫している。	加湿器付きの空気清浄機があり、窓を開けて換気をして、エアコンで温度湿度調整をしている。ソファ・テーブル・椅子等の備品がある。折り紙・カレンダー等をリビングの壁に掲示して季節を感じ、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気がいい日は廊下で日向ぼっこをしたりとそれぞれが気分に合わせて過ごす場所を工夫している。特定の場所にしか座らない方もいるので、トラブルにつながらないように見守っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があればその方が使っていた物等を持参してもらっている。人によっては写真や人形、パズル等を飾ったり、仏壇を持ち込んでいる方もいらっしゃる。	居室はベッド・エアコン・ダンス・押し入れ等の設置がある。寝具類は持ち込み、ラジオ・仏壇・家族写真・人形・パズル等を持ち込み、馴染みの物を近くに置き落ち着いた生活ができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かせるよう努めている。目線の高さやトイレ等の表記をし、一人でも理解出来、自立を促すよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない